冬尺蛾（フユシャクガ）「ナミスジフユナミシャク」

根室の一年間の夜間の昆虫の発生を追ってみると、７月後半に爆発的に増え徐々に減少して10月中旬にはわずかになってしまいます。昆虫を捕食するコウモリもそれに伴い、一番餌が多い７月後半に出産し子育てをして10月中旬にはほとんどこのあたりからはいなくなります。しかし、10月後半にコウモリ調査を行ったらチチブコウモリの捕獲が数多くありました。また、冬尺蛾もたくさん飛んでいました。一般の蛾が衰退したあと冬蛾は一気に増えるのです。

ナミスジフユナミシャクは、林業害虫として知られています。北海道林業試験場のホームページを見ると、「幹上で卵の状態で越冬し、早春の孵化し新芽や若葉を食べる。被害は、北海道では、ハンノキ類やカンバ類、サクラなどである。」と書かれています。根室市温根沼地区は、植林され難いケヤマハンノキとダケカンバが自生しています。そのためそれらに対する植害防除は対象外ですが、ナミスジフユナミシャクとチチブコウモリの面白い関係が浮かび上がってきました。

▲温根沼林道に生息するナミスジフユナミシャク（平成15年11月６日撮影）

▲ナミスジフユナミシャクの雌は翅（はね）が退化して飛べない。

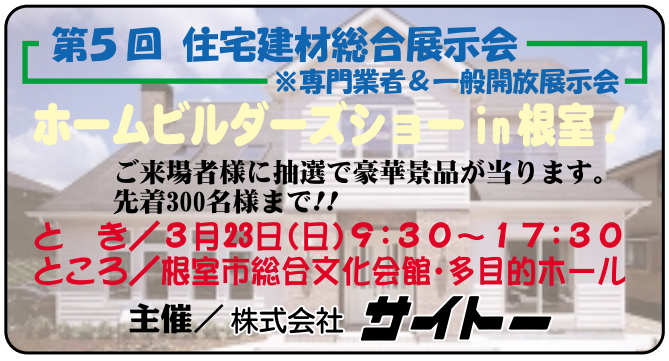
チチブコウモリは、蛾専門に捕食するコウモリです。コウモリの中でも活動時期が一番長い部類に属し、特に冬蛾の発生する晩秋にも数多く飛んでいます。コウモリの体重は、１年のうちで秋に皮下脂肪が増し一般に２～３割増すといわれていますが、チチブコウモリでは平均で４割、中には約６割も増す個体もいます。その増量の全てがナミスジフユナミシャクにあったとするなら膨大な量を食べていたと考えられます。だが、交尾してから雄のみが食べられたとしたら、ナミスジフユナミシャクの減には繋がりません。お互い子孫を残すためにろいろな工夫をしているのだということをつくづく感じました。

（主任学芸員　近藤　憲久）

人の動き　平成20年2月1日現在

		前年同月比
人口	30,863 人	（−483）
男	14,759 人	（−250）
女	16,104 人	（−233）
世帯	13,098世帯	（−34）
1月の誕生	18 人	（3）

発行・印刷　根室市役所情報管理課・根室印刷（株）

編集後記

■今年の厳しい寒さも、3月の辛カレンダーを見ると後少しの辛抱。■卒業・入学シーズンを迎え、準備に忙しい日々の家庭も多い。子どもたちも、新しい生活に思いを抱えて、不安と期待の入り交じる新生活。真新しい制服を着て、楽しもうよ。（T）